

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぽの家 GH釜石平田

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100153		
法人名	SOMPOケア 株式会社		
事業所名	SOMPOケア そんぽの家 GH釜石平田		
所在地	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田平田第一地割1番31		
自己評価作成日	令和2年11月12日	評価結果市町村受理日	令和3年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自分の家として生活していただきたいので、決まり事ではなく自然に、ある程度の自由を取り入れ、できないことは共に言いながら、一人一人がその人らしく生活してほしい。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、以前あった2ユニットの建物を活用し、1ユニットをグループホームにもう片方をデイサービスとして新たに開設したもので、開設して1年半が経過している。新興住宅地内の事業所として、率先して自治会に加入し、管理者自らホームの行事等の案内通知を配り、「地域と共に」を念頭に地域との交流に努力している。現在は、コロナ禍のため縮小しているが、以前は歌謡や踊りのボランティアの受け入れやレクリエーション活動を併設のデイサービスと合同で開催するなどを行ってきた。利用者や家族の利便性を考慮して、毎月の訪問医療や訪問看護ステーションからの看護師の派遣が行われるなど、医療環境の面でも充実した取り組みが行われている。コロナ禍の対策も、利用者への朝の検温を始めとする体調管理に努め、時間を短縮して家族等の面会を行っているほか、職員の検温や事業所の消毒等に鋭意努力している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営方針を踏まえた理念に基づき対応するようにしている。	「人間尊重」を基本に、安心・安全・健康で長寿国日本の実現を目指すとする法人理念を掲げ、それに基づいた5項目の行動指針を設け、機会がある都度、管理者が説明して全職員で共有を図り、実践に向けて努力している。	事業所開設から1年半、法人の大きな理念をバックに努力されております。今後は、事業所としての年度又は半年ごとの身近な活動目標を職員全員で協議し、一つ一つ取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方への挨拶を心掛けているが日常生活での交流はあまりない。	上平田町内会に加入し、総会にも職員が参加している。例年なら、近隣の幼稚園児が散歩の途中に立ち寄りたり、中学生のよさこいソーランの踊りで来訪しているが、今年はコロナ禍のため中止になっている。コロナ禍が終息した時は、昨年同様に夏まつりや敬老会など、地域との交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会等、地域の方にもご参加いただく運営推進会議の場で事業所の取り組みや利用者の状況等をお伝えしている。各種行事に近隣住民の方へ参加を呼び掛けていきたいが、感染症対策のため実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて利用者の状態・現状を報告し、ご意見をいただいた際には、事業所内にて共有を図っている。	運営推進会議は、市役所、地域の生活応援センター、町内会役員、民生委員等とバランスが取れた構成となっている。コロナ禍のため4月は休止したが、6月から再開している。委員からは、台風や停電、避難経路に関する情報などを教示されたり、ヒヤリハットに関する意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方への報告、疑問点の問い合わせ等、都度確認しながら取り組んでいる。	市役所介護福祉課の窓口には、要介護認定申請で訪問して指導を受けているほか、地域包括支援センターからは利用者の情報を得るなど、日頃から交流がある。運営推進会議に毎回出席をいただき、様々な行政情報をいただいている。また、地区内の生活応援センターからも会議に参加いただき、地区内の困りごと等の話題が出され相互に連携している。地域ケア会議や平田地区会議には、事業所として出席している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアはリモコン式で、リモコンはどなたでも手の届く場所に置いている。夜間を除き、施錠はしていない。利用者が出かけたいときには職員が付き添う等、各利用者に合わせて対応している。	昨年に指針を作成し、身体拘束等適正化委員会を3か月毎に開催している。管理者、計画作成担当者、看護師などで構成し、毎回会議の内容を職員へ周知している。時折、スピーチロック的な言葉遣いがあった際には、管理者がそれとなく注意している。身体拘束の事例はなく、離床等のセンサーも使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束防止についての研修を定期的で開催し、虐待防止・身体拘束廃止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修の機会を設けている。現状、該当する方がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際、丁寧でわかりやすい説明に努め、質問や疑問にはその都度お答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様、ご家族様から意見や要望があった際には口頭で回答し、また、職員間で共有している	家族が面会に来訪した際に、意識的に話しかけ、意見や要望を聴き取るようにしているほか、来訪のない家族には事業所から電話で意見等を伺っている。また、本社から家族等に請求書を送付する時に、家族アンケートを同封し要望等を尋ねている。外出したい、髪を切りたいなどの利用者の要望には、事業所の車でドライブに出かけたり、美容師に出向いてもらう対応をしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議等にて、職員の意見を聞く機会を作り対応している。	管理者が進行する定例会議や朝のミーティング、夕方の申し送りの際に、職員から意見や要望を聞いている。行事、物品、衛生等の委員会からも職員の要望等が出され、外出の際の車の手配、買い出し、行事での対応職員の増員、エアコンの修理など、要望には適時に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に事業所を訪問したり、職員の意見を集約したりしながら処遇の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職域ごとの研修や職能に応じたOJTの機会を設け、また、社外の研修についても必要に応じて業務として参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修や外部の研修会等、情報を提供し参加の機会を作っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人様のお気持ちや生活についての意向等を伺い、また、事業所として出来ること・出来ないことをご説明し、共同生活の中でどのように過ごしていただくかご理解いただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にご家族様にこれまでの生活やお気持ち、今後の生活についての意向等をよく伺い、また、事業所として出来ること・出来ないことをお伝えし、ご本人様が共同生活の中でどのように過ごされるかご理解頂けるように努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の困りごとに対し、優先順位を設定して支援できるよう努めている。状況により、医療機関の受診や他サービスの利用をお勧めすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が生活のすべてを介助するのではなく、ご本人様にできることはご自身で行って頂くよう、声掛けをしながら対応している。また、ご本人様が残存機能を活用できるよう、福祉用具の活用等、環境整備にも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に対し、入居後の生活においてご協力いただきたいこと(通院付き添い等)をあらかじめお伝えし、入居後もご本人様とご家族様が関係を途切れさせることがないように図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策を講じた上で、面会者の限定をせずに馴染みの方との交流が続くように図っている。また、ドライブクの際に各利用者の自宅周辺に立ち寄る等、馴染みの場所との関係が途切れないよう図っている。	以前からの通院している病院で馴染みの知人と思いがけずに会えて会話が弾んだり、市内の方から、仕事や居住していた場所や様子を尋ねたり、昔の写真を見ながら利用者から当時の街並みを聞いたりするなど、利用者の馴染みの知人や場所、記憶を探りながら、交流が続けられるよう職員同士で情報を共有して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮しつつ、トラブルや孤立感がないよう、利用者の輪の中に入りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了(退去)後の生活について、必要な援助を受けられるよう関係機関との連携に努めている。ご本人様、ご家族様についても、退去後の生活についての不安感等をよく伺い、支援を図っている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いや意向、これまでの生活の様子等を折々で伺いながら、ご本人様らしい生活を送っていただけるよう支援している。	利用者から思いや昔の話をされる機会が増えている。その内容をミーティングで話し合い、ケアプランに反映したり、個別ファイルに記録して職員間で共有している。言葉で思いを表現できない方は、しぐさや表情から判断したり、時には家族や知人に伺って支援している。また、日常生活で過去の習慣が残っている方には、他の利用者と同じことを無理強いさせないで、その方なりの生活を送っていただけるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、関係機関担当者(前任のCM等)からの聞き取りにより、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態や生活状況、できることの把握、観察に努め、職員間で情報共有しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の習慣、できることに配慮し、ご本人様らしい生活を送っていただけるようカンファレンスにて介護計画や支援内容を検討している。	入居時に本人や家族から意向の確認、要望を把握したうえで、ケアマネージャーが当初のプランを作成している。入居後、職員や管理者の意見も交えて次のプランを作成し、本人や家族に説明している。プランは3か月から長くて半年で見直しを行い、医師や看護師の意見や助言も取り入れている。利用者によっては、家事への従事や長年の習慣、本人の趣味・特技などをモニタリングし、その評価を職員全員が出席する定例会で協議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で個別記録の回覧や報告事項等の情報共有を徹底し、利用者の生活状況や申し送り事項等について、職員一人ひとりが自分の出勤日以外のご様子についても十分に確認しケア業務にあたるよう努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療医や歯科医、訪問看護事業所、各種ボランティア等との連携により、幅広いニーズに応えられる体制作りを図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方々との交流を基本とし、ご本人様やご家族様の意向を踏まえ、必要に応じて地域資源の活用を検討、提案している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院の付き添いは基本的にご家族様に依頼している。ご家族付き添いによる定期受診が困難になった方については、ご本人様、ご家族様にご納得いただいた上で訪問診療へ切り替えていただいている。受診先医療機関には、心身状況の変化や生活状況等について適宜情報提供を行っている。	利用者は、家族の送迎により、かかりつけ医を受診しているが、家族送迎が困難な4名は、家族の同意のもと訪問診療を受診している。家族送迎での受診の際は、本人の心身状況、生活情報などを受診先の医療機関に提供している。また、月4回、訪問看護ステーションの看護師の派遣をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との業務委託契約に基づき、月に4回、看護師に訪問していただき、療養上の助言を受けている。利用者の体調に変動があった場合には、その都度状態を報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には医療機関への情報提供を行っている。入院中には病状の変化や退院調整等、医療機関の担当者との連携に努め、退院時には医療機関からの情報提供を受け、円滑に再入居できるよう図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所としての対応方針や、できること・できないことについては、契約時にご説明し、同意をいただくようにしている。実際に重度化した際には、ご本人様やご家族様へ意向の再確認や対応方針の再説明を行い、主治医等とも十分に連携を図りながら、意向に沿った対応をとれるよう努めている。	重度化した際の対応方針は入居契約時に説明し、同意をいただいている。開所1年半で入院による退所者は2名いるが、看取りの経験はない。実際に重度化した際には、本人・家族へ意向を再度確認し、主治医、看護師との連携を密にして、意向に添った対応が出来るように努めている。	ターミナルケアを行う方針に沿って、利用者の終末期を支えるために、職員の看取りに関わる研修を重ね、知識、技術の向上を図っていかれることを期待します。

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調急変時や事故発生時の対応について、研修や訓練を定期的実施して備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応や防災について、定期的に研修や訓練を行っている。近隣の福祉施設に避難する体制としている。	ハザードマップでは、水害の指定地ではないが、年2回消防署立ち合いで併設の通所施設と合同の火災避難訓練を日中に実施している。避難場所は、近くの特別養護老人ホームや平田小学校を指定されているが、災害の状況により事業所2階に垂直避難することも想定している。非常食、トイレ、車からの電源供給などを備えている。	日中は人的対応が比較的容易なもの、周囲が暗い夜間避難は困難が予想されます。近隣住民の協力・支援を得ながら、夜間行動の課題を把握する上でも、夜間避難訓練の実施を段階的に検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者について、どのような人生を歩んできた方なのか事業所内で共有を図り、生活習慣やこだわりに配慮し対応している。プライバシーに関する事柄については、居室内等対応する場に配慮している。	利用者が出来ることを尊重した介護支援を心掛け、コミュニケーションを取りながら利用者の良い面を活かした介護に努めている。そのため、利用者個々のこれまでの歩み、生活習慣やこだわり等を職員間で共有している。ケアプランの説明やプライバシーに関することは、居室内で行うとともに、難聴の方や個性の強い方への対応の仕方も職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助の際、声掛けにより意向を確認しながら実施している。どのように過ごしたいかを伺いながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・レク・余暇等、無理強にならないよう声掛けし実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの衣類を持参して頂いている。更衣時は本人様に確認しながら行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	量・食事の形態を確認しながら提供している。利用者の役割として、食事後の片づけ等を行っている。	食事の主菜は、法人の関連会社から配送され、職員がご飯とお汁を調理している。行事食として、正月のおせち、ひな祭りのちらし寿司のほか、利用者の希望でおいなりさんやハンバーガー、のり巻きなどを作って提供している。盛り付けをお願いされた利用者は、満足気な表情を見せてくれる。食後の片付け(食器拭き・テーブル拭き)も出来る方は職員と一緒にやっている。外食はコロナ禍のため自粛しているが、何時もは道の駅に出掛け、ソフトクリームやたい焼きなどを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の嗜好を踏まえ、食事量・水分量を把握し提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者ごとの生活習慣を踏まえ、協力医療機関である歯科医院に指導をいただきながら、口腔ケアに取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ごとの排泄リズムの把握に努め、なるべくトイレで排泄していただけるよう図っている。	利用者の殆どがリハビリパンツを使用しており、夜間、数人がオムツを使用しているが、居室でポータブルトイレを使用している方はいない。職員は、利用者がトイレに行く時間帯を把握し、適時なトイレ誘導で対応している。認知症状が進行し自覚していない利用者には、その都度トイレに誘って自覚を促すよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レク等による運動機会の確保や、水分摂取量の確保に努め、便秘予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設事業所の業務の都合により、昼食後の時間を入浴時間としている。利用者ごとの入浴の間隔を考慮しつつ、入浴の希望を伺いながら対応している。また、一対一での入浴であり、ゆっくり入浴時間を楽しんでいただけるよう図っている。	入浴は、週に2回、毎日午後2時から4時の間としている。入浴を嫌がる方はいないが、体調により足湯のみの方もいる。殆どの利用者は自力で着替え出来、2名の方は希望により同性介助としている。普段、会話の少ない利用者でも思いや希望などを話す時間や場所となっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ごとの生活習慣や、その時々心身状況を踏まえ、十分な睡眠時間がとれるよう入床の介助や声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の確認、服薬前後の薬包の確認を徹底し、介助している。また、体調の変化に留意し、特変時には主治医や訪問看護ステーションへ報告し、対応の指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできることや趣味嗜好を個々に把握し、声掛けや環境作りをしたり、職員と一緒に取り組んでいただいたりして前向きに活動していただけるよう図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の予防のため、日常的な外出は不足している。毎月行事を計画し、外出機会を確保できるようにしている。	昨年は、道の駅や花見に小川近辺に外出していたが、コロナ禍のため意識して日常的な外出は控えている。時折、晴天時にドライブに出かけるが、感染予防のため降りないで景色を眺めて帰ることが多くなっている。通院時に車から自宅を眺めて来る利用者もいるほか、2、3名の利用者は、職員とおやつの買い物に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望を伺いながら、買い物対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話や手紙は、ご本人様の意向に沿いつつ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・匂いなど不快感がないように配慮している。季節ごとに飾りつけなども行っている。	通所施設との仕切りを外すと広々としたスペースとなり、歩行訓練は勿論、輪投げ、ボーリング等様々なゲームが楽しめる。吹き抜けの天井があることで、スッキリした、気持ち良いグループホームとなっている。その中で利用者が食事づくりの手伝いやフラワーアレンジメントなどに夢中になっている姿が印象的である。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家 GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の利用者が、どこで時間を過ごしたいのか都度確認しつつ、誘導等の介助をしている。事業所フロアにはテーブル席、ソファ席を用意し、好きな場所で過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人様を使い慣れたもの(家具、日用品等)を置いていただくようご家族へ依頼し、居心地が良い空間となるよう配慮している。	居室入口には人名でなく四季折々の花の名前が掛けてあり、居室内には介護ベッド・エアコン・換気扇、収納棚、筆筒が備え付けられている。テレビ、机、椅子、家族写真等が持ち込まれ、裁縫や縫い物が出来る環境も整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不十分なところもあるかと思うが、利用者個々の能力を踏まえ、居室内や共用空間の環境整備を図っている。(家具の配置等)		